

自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

2002年6月
No.29

発行 / アジア・アフリカと共に歩む会

Published by Together with Africa and Asia Association (TAAA)

2002年6月の報告と予定

- 2月南ア連絡員MEIとケープを訪問
- 5月MEIへ本を送付
- 6月車2台クワズールーナタールへ送付
- 7月南アBLLへ河合塾より本送付
- 8月連絡員帰国報告会
- 10月TAAA10周年記念祝賀会

目次

METHODIST EDUCATION 移動図書館車プロジェクト.....	2
ケープに惹かれる理由.....	4
図書館職員から思うこと.....	5
2001年度会計報告.....	6
活動報告／ホームページができました.....	7
寄付をくださった方々.....	8



図書館車に集まる子どもたち デベトンの小学校で

METHODIST EDUCATION 移動図書館車プロジェクト

平林 薫



現在、ハウテン州デベトンを中心に周辺のタウンシップの小学校およびファームスクール、28校を回っている。中心スタッフはアリソン、ジョージ、アブソレムの3名。3週間かけて各学校を回り、貸し出しをして、4週目から順次返却に回る。先生一人につき最大20冊まで貸し出している。今年から本の背にはレベルごとに色分けされたシールが貼られ、先生方が短時間で選びやすいように工夫されている。

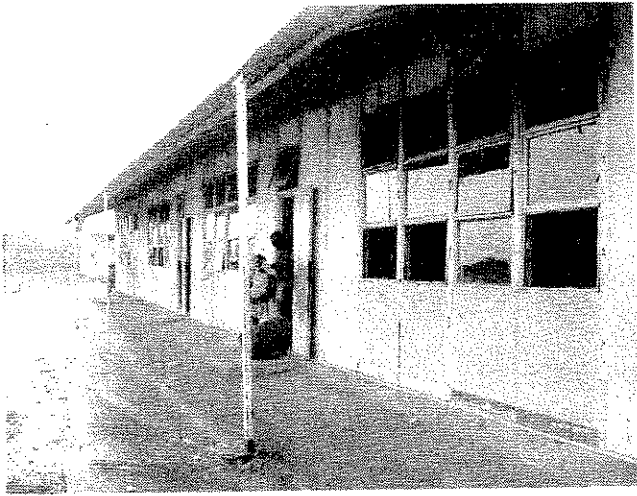
ひとつ驚いたことは、現在デポのある DAVEYTON INTERMEDIATE には本の貸し出しをしていないとのこと。校長先生始め先生方が積極的でなく、また以前なかなか本が返却されないというような問題があったそうだ。本来はモデル校としてプロジェクトの中心になるべき学校なのに残念だ。

2月13日は、デベトンの SIPHETHU PRIMARY と KATLEGO INTERMEDIATE の2校を訪問。先生方は積極的に図書館車を利用している。ただ、2月は学期初めなので、まだバタバタしている学校が多く、2学期になればもっと落ち着いて、先生方もより積極的に本を借りていくようになるとのこと。2校とも設備的にはまだまだだが、とりあえず図書室があり、SIPHETSUにはコンピューター室も完備。とい

っても数台のコンピューターしかなく、月々10ランド払える生徒のみ使えるようになっている。

前日までかんかん照りで暑かったのに、この日は雨。”私が出かけると必ず雨になるんだから。日本では雨女って呼ばれていたの。”というと、”そうか、君は MAPULE (マプシ) なんだな。やっぱり南アに必要な人だ。”とジョージにいわれた。そういえば、私がこちらに住み始めた97年くらいから雨が多くなり、ひどいときは洪水になっている(これはちょっと困りものだが)。“雨乞い祈禱師”としてデビューする日も遠くないかもしれない。



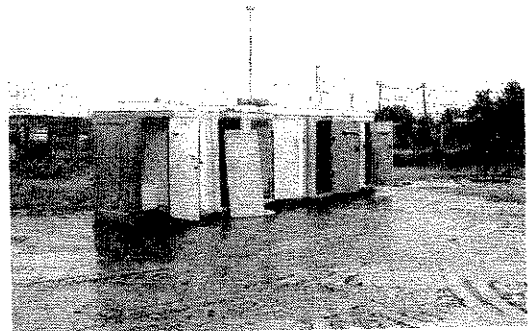
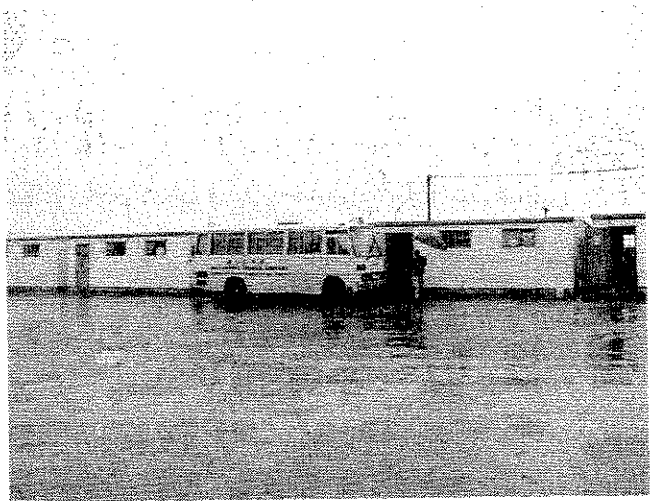


2月14日バレンタインデーは、JS MALAZA, KGOLAGANO PRIMARY, SAZAKHELA PRIMARY を訪問。JS MALAZA は比較的コンディションのいい学校で、バレンタインデーのため、子供たちは私服でとてもカラフルだった。教室に私が現れると、しばらくはびっくりした顔をしていたが、そのうち空手のポーズをとったりしてとてもかわかった。現在空いている部屋のひとつを図書室にしようとして準備中。移動図書館プロジェクト担当責任者のフィリピン先生が校内を案内してくれた。

KGOLAGANO は ETWATWA というエリアにあり、1995年設立の”新しい”学校だが、コンディションはかなり悪い。この日は前日より雨脚が強くなり、校庭は沼のようになっていた。風の強い日は砂嵐になり、校庭では運動するどころか、歩くこともままならなくなるという。校舎は簡易建物で、トイレも移動式の簡易トイレが7、8個あるのみ。それを全生徒1240人で使用している。教室は24室しかなく、60人のクラスもある。もちろん図書室などなく、校長室や先生方のミーティングルームも簡易建物。これまで訪問した学校と違って、先生方がなんだかやる気がなさそうに感じた。アリソンも、こういう学校こそ教育材料が必要なにもかかわらず、先生方が積極的でないと言っていた。半ばあきらめてしまっているような感じさえた。ただ校長先生は、これからも支援を続けて欲しいと訴えていた。川のようにになっている道をゆっくりと走りながら、次の学校へ。

SAZAKHELA はバルセロナという INFORMAL SETTLEMENT (不法居住地域) にあり、1996年に設立。

この学校のコンディションも最悪。校庭にドアの壊れた簡易トイレが7、8個並んでおり、これを全校生徒2000人で使用している。これは衛生的にも道徳的にもひどすぎる。教室の数も少なく、90人で使用しているクラスもある。本来は一時的な学校で、近くにきちんとした建物を建てるという教育省の約束がいつこうに進んでいないとのこと。周辺のスクワッターに住む子供たちの親の大半は失業中という状況にある。当日は先生方全員がお葬式に参列するとのこと、授業はとっくに終わっていた。というわけで、本の貸出しはできなかったが、スタッフの女性が学校内を案内してくれた。彼女は、とにかくどんな形ででも支援をして欲しいと訴えていた。



3月5日付けの新聞に、ハウテン州は新しく学校を建設したり、教室を建て増ししたりするための来年度の予算として、3億2千万ランド(41億6千万円)を計上したと報じられた。特に INFORMAL SETTLEMENT にある学校の設備を整えるのに使われる。これらの学校のコンディションが(特にトイレ!)少しでもよくなることを願っている。

ケープに惹かれる理由

植田智加子

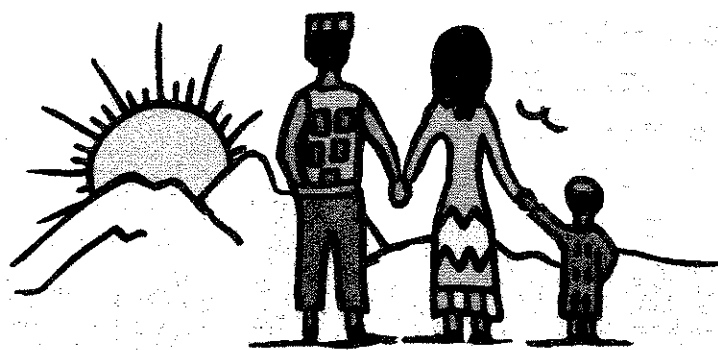
私には、ケープタウン生まれで5歳になる息子がいます。息子の父親はケープタウンに住む南アフリカ人なので、毎年母子でこの町を訪れます。

息子には兄と姉が合わせて5人います。息子の父親の子どもたちで、一番大きいのは28歳、息子のすぐ上は13歳で、全員イスラム教徒です。彼らは、我々がケープタウンに行くときには、空港で待っていて、私の手から奪い取るようにして息子を連れて行ってくれます。決して私に来るなど言っているのではなく、母子ふたりきりの子育てのストレスから一刻も早く解放してやろうという配慮のために私はひとり取り残されるのです。

息子が連れていかれるのはミッチェルズプレインというカラードの居住区で、ここで息子はイスラム教徒の子どもたちといっしょに遊び、年上の子どもがコーランを暗誦するのを聞き、夜はひとつのベッドに3、4人がいっしょに寝るそうです。ときどき、「ママがいなくてもまったく平気だから、好きなことをしていいよ」などと電話してきます。それならば、と私が出かけるのは黒人居住区のサンゴマ（アフリカの伝統治療師）のところ です。息子がいるときには、子連れでは迷惑だろうと訪問を遠慮しているのです。

久しぶりに母子が再会すると、私の方は黒人居住区で覚えたとうもろこしの料理に凝っていて、息子の方はムスリムの子どもの間ではやっている遊びを一生懸命説明してくれます。なんだか顔つきまでムスリムっぽくなって帰ってきたみたいです。ちなみに我々を泊めてくれているのはユダヤ人の家族で、金曜日には、ろうそくを灯しての祈りに私たちも加わり、ハーラというパンを食べます。

異文化にあまり触れることなく育ったからでしょうか、様々な文化や宗教と交わりながら生活できることは、私にとって、ケープタウンの最大の魅力になっています。



植田智加子さんは1990年、南アの大統領ネルソン・マンデラ氏が来日した折、鍼灸師としてその治療に携わり、その感動的な体験は著書「手でふれた南アフリカ」に詳しく描かれています。1992年にTAAA主催のユネスコマネさんの講演会の際、通訳をしてくれました。

図書館職員から思うこと

埼玉県立浦和図書館勤務 北爪 健一

私とTAAAとの関わりは今から5年程前(97年3月)、ELETの職員ジェーン・ジャクソンさんが来日し、移動図書館の運営の状況の視察に埼玉県立熊谷図書館を選んだことに始まった。

南アフリカのことは一般的なニュースの断片と与野市の危篤な人が各公共図書館へ、要らなくなった移動図書館を譲って欲しいとの手紙を読んだくらいだった。差出人は野田代表であった。

熊谷図書館では、初めての外国人の受け入れに万全を期した。その一つには、何故移動図書館か、巡回の前にはどのような準備があるか、貸し出す手順など解説とマニュアルを職員が英訳し、宿泊を伴う巡回にジェーンの日程を合わせて貰い、案内役の1名を同乗させた。その案内役が私であった。

その後、個人として定期的に行われる図書のカラダ作業、一度だったが仮ナンバーを付けて移動図書館車の移送も手強い、97年11月には南アフリカ訪問のメンバーにも選んでいただいた。ジェーンの視察の様子と南ア訪問記は「自由の南アフリカの声」NO14・15を参照されたい。

移動図書館車の今後

今までに送られた移動図書館車は10台となった。そして、行く先を待つ車が、さいたま市の浦和駅近くの個人駐車場、石塚さんに2台預かっていただいている(費用なし)。TAAAとしては1日でも早く活躍することを願うのだが、車の出荷前の整備費と輸送費の問題もさること、数年前に送った2台が未だに活躍できない状態にあり、活用に現地NGOへ要請している状況である。このことは皆様の厚意を無駄にしないためでもある。

車庫入り状態の2台、ケープタウンの近郊のコミュニティの事情として、図書は在るが移動図書館の運営経費と職員が工面できないと聞く。そんな状況、わが国でも希ではない。(2000年6月現在運行中/編者注)

2000年、わが国公共図書館が持つ移動図書館の台数は653台、1995年の754台と比較すると101台の減少となっている。数字を読むと固定施設の図書館設置によるものも多いが、本来続けられるべき市町村が職員不足や運営費不足で中止したことも見逃せない事実である。TAAAの活動として古くない車が入り喜ばしいことだが、ある面、わが国でも南アのコミュニティと変わらぬ状況となっている。

新機軸・学級文庫プロジェクト

現在、ELETとの協議中である「鍵の掛かる小さな本箱の学級文庫」は、このような状況を打破する展開と思う。昨年実現した河合塾の協力は、図書の供給源として公文会場を勝るものがある。このような力を無にしないためにも、流れのよい図書供給システムを確立することが重要であり、学級文庫の拡大によって多くの図書が必要となろう。

これまで、私の経験として小学校への図書の入れ替えをしてきた。無論、移動図書館での入れ替えも行ったが、バンでの入れ替えもあった。いわば、供給センター・図書館と学級の物流は、車の形は問われない。それが進む一つの方法として、教師同士が本箱ごと交換し、子どもたちへ新しい本を与えることも思い付く。願わくば、本箱には鍵が無く、いつでも自由に読め、自宅へ持ち帰られる環境になって欲しい。

2001年11月、わが国では子どもの読書を推進するため、読書活動の推進に関する法律案が上程され12月可決・法制化された。その背景や方策については避けるが、未だ、子どもの読書については欧米に遅れをとっている。

読書は自発的な営みであるが故、その自由は保障されなければならない。コミュニティのプライマリーへ通う子が、今度は図書館へ行って本を、と言う様な時代も近いと信じる。

2001年度「アジア・アフリカと共に歩む会」会計報告

(2001年4月～2002年3月)

収入	支出
前年度繰越金 2,142,701	
	本輸送費 541,925
寄付金 2,704,380	図書館車諸経費 204,315
物品販売 41,200	通信費 151,965
講演料 10,000	交通費 1,110
助成金 500,000	印刷費 34,388
内訳:	事務費 45,805
埼玉県国際交流協会助成金 500,000	現地連絡員活動費 153,875
	現地NGO支援金支出 1,129,990
預金利子 234	内訳:
	Tシャツ寄付等に係る費 129,990
	※ ELET 支援 500,000
	※ MEI 支援 500,000
	※ 下記 (参考) 欄をご参照下さい
	助成金関連支出 18,858
	内訳:
	郵政省返還金 18,858
	次年度繰越金 3,116,284
5,398,515	5,398,515

上記の通り報告いたします

2002年3月31日

会計

安部弥生

会計監査

小宮山明子

付記: 次期繰越金 3,116,284円には、2002年度の現地NGO支援金支出額 1,100,000円が含まれています。
(ELET、MEIにそれぞれ 550,000円を2002年6月14日に送金しました)

※ (参考) 《2001年度現地NGO支援金使途内訳》—現地NGO報告より
()内は日本円換算価額、1ランド=16.69円で換算。

ELET (ENGLISH LANGUAGE EDUCATIONAL TRUST)

書籍受取経費および書籍維持管理費	6870.75ランド
図書館車維持管理費	5405.04ランド
人件費等運営維持費	16474.80ランド
合計	28750.59ランド (479,847円)

MEI (METHODIST EDUCATION INITIATIVE)

書籍受取経費および書籍維持管理費	4939.77ランド
図書館車維持管理費	9548.65ランド
人件費等運営維持費	13281.19ランド
合計	27769.61ランド (463,474円)

◆主な活動(2002年1月16日~5月20日)

1/20 作業と会議 平林薫 浅見克則 野田千香子
安部弥生 下谷房道 村泉巨竹 山田玲子 千葉愁子
1/25 会報発送のための住所準備 小宮山明子
1/30 TAAA 連絡員 平林薫 南アへ戻る
1/30 顕微鏡 18台 寄贈受ける
2/10 梱包作業と会議 浅見 村泉 下谷 野田
2/12 川口西ロータリークラブにて 講演 野田
2/12 28号編集会議 山田 野田
2/13~14 南アデボトン、エトワトワの移動図書館巡回学校
28校中6校を訪問 平林
2/14~16 ケープタウン周辺を訪問
June Baatjes とゾアールへ 平林
2/18 ME I のアリソンとファームスクールへ
2/18 会報28号印刷 NHK労組 小松浩

2/21~23 会報発送 井出栄栄 井出千亜紀
3/9 作業と会議 10周年誌の準備 下谷 野田 浅見
安部 山田 村泉
3/13 在南ア日本大使館でプロジェクト説明
June Baatjes 平林
3/26 ME I の車修理部品購入送付 浅見
3/27 埼玉県国際交流協力ネットワークへ出席 野田
3/31~4月 埼玉県助成金の報告まとめ 久我祐子 野田
4/14 作業と会議 野田 浅見 安部 山田 北爪健一
村泉 下谷
4月 TAAAホームページ制作 大久保忠人
4/26 南ア フリーダムデイ祝賀会 大使館にて 野田 浅見
5/2 埼玉県国際交流協会へ助成金報告提出 野田
5/10 ME I へ本出荷 野田
5/19 会議 浅見 下谷 安部 野田 荒井理恵

ホームページができました

TAAAのインターネットのホームページが5月からスタートしました。

2~3ヶ月ごとに新しい情報を更新していくつもりです。

TAAAの活動に関心のある方にもご紹介ください。

ホームページアドレス <http://www.h4.dion.ne.jp/~taaa/index.htm>

最近の活動から

- ☆ 南ア連絡員の平林薫さんが2月に西ケープ州のエルギンコミュニティカレッジ(NGO)やゾアール地区を訪ねた。エルギンでは図書館のベースとしての建物が日本大使館の援助で建設され、移動図書館が学校を回り始めたところだった。西ケープ州の図書担当官のジューン・パーチェスは、もう1台をさらに教育施設の遅れているゾアールで使用することを提案してきた。私たちはもちろん賛成した。彼女を中心にゾアールで新たな教育開発が始まる予定だ。平林さんのデボトン訪問の報告は本誌に掲載されている。
- ☆ 5月にME I に本を送った。車の免税許可を申請して8ヶ月にして発行されたのを受けて、クワズールーナタール州に6月、移動図書館車を1台送付した。(2台の予定であったが、残念なことに南ア政府発行の許可証記載のシャシ番号にミスがあったため、1台は延期とした) 7月には河合塾から昨年集めた本の一部を南アBL Lに送る予定である。
- ☆ 2001年度の会計から安部弥生さんが担当することになった。
- ☆ 6月に平林さんが帰国した折には報告会を開催の予定だ。10月にはTAAAの10周年記念祝賀行事と10周年記念誌発行を予定している。

野田香子

4